



2022年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年8月12日

上場会社名 愛眼株式会社
 コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2021年8月12日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 下條 三千夫
 (氏名) 佐々 昌俊
 TEL 06-6772-3383

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	3,154		344		328		352	
2021年3月期第1四半期	2,489	35.9	587		569		595	

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 359百万円 (%) 2021年3月期第1四半期 587百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	18.18	
2021年3月期第1四半期	30.69	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	15,173	13,245	87.3
2021年3月期	15,489	13,604	87.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 13,245百万円 2021年3月期 13,604百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期					
2022年3月期(予想)		0.00			

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2022年3月期(予想)期末の配当につきましては未定であります。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,933	21.1	8		42		19		0.98
通期	15,980	17.8	204		245		121		6.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期1Q	21,076,154 株	2021年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	2022年3月期1Q	1,668,316 株	2021年3月期	1,668,306 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期1Q	19,407,846 株	2021年3月期1Q	19,407,784 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う3度目の緊急事態宣言の発出並びにまん延防止等重点措置の適用が一部地域で再実施され、社会経済活動は引き続き停滞し、非常に厳しい状況となりました。個人消費につきましては、雇用・所得環境の回復が遅れ、消費者マインドに影響を与えるなど、今後も消費の低迷が続くことが懸念されます。このような情勢のもと、国内のワクチン接種が順調に進み、社会経済活動が早く正常化に向かうことが期待されております。

このような状況のもと、当社グループは、お客様と従業員の安全と健康を最優先課題と位置づけ、新型コロナウイルスの感染予防策の徹底に取り組んでおります。また、当社は2021年1月に創業80周年、設立60周年を迎えました。お客様からの長年のご愛顧に応えるべく計画した創業80周年の周年事業を推し進めるとともに、「お客様の目の健康を守る」ことを眼鏡専門店としての社会的な使命と責任と捉え、お客様からの支持・信頼の獲得に焦点を当てた営業施策を継続して推進しております。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、3度目の緊急事態宣言の発出並びにまん延防止等重点措置の適用による、当社出店先である大型商業施設の休業に伴い最大31店舗が臨時休業したほか、一部店舗では営業時間の短縮を余儀なくされるなどの影響により、来店客数が落ち込みました。しかしながら、休業店舗数が前年同四半期の半数以下にとどまったため、売上高は3,154百万円（前年同四半期は2,489百万円）と前年同四半期を上回る結果となりました。また、売上総利益率は、主に価格施策や品種別の売上構成比の変化の影響で若干減少しました。経費面では、休業店舗のテナント家賃の減免額が前年同四半期比で減少したことや、前年同四半期に新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて大幅に削減した広告宣伝費が、当第1四半期連結累計期間では創業80周年事業推進のためテレビCMやチラシなどを増やしたことで、販売費及び一般管理費は2,553百万円（前年同四半期は2,340百万円）となりましたが、売上高に対する販管費の割合は減少しました。

この結果、営業損失は344百万円（前年同四半期は営業損失587百万円）、経常損失は328百万円（前年同四半期は経常損失569百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は352百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失595百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた快適で安心な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した「愛眼ブランド」の強化に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様のニーズに的確に対応した商品開発に注力し、素材・機能面において高品質でお客様満足度の高い商品の品揃えの充実を図るとともに、お客様に選ばれる「愛眼ブランド」の競争優位性とテレビCMやSNSなど幅広いメディアを活用する複合的な情報発信を含むマーケティング施策の強化を通じて、質の高いサービスを提供できる体制の構築に取り組んでおります。

売上高につきましては、3度目の緊急事態宣言の発出並びにまん延防止等重点措置の適用に伴い、一部店舗において休業や時短営業を余儀なくされ、来店客数が落ち込んだことなどが当第1四半期連結累計期間の売上推移に大きく影響しました。しかし、前年同四半期は新型コロナウイルス感染症の影響が今年度に比べ顕著であったため、当第1四半期連結累計期間においては、中心品目のメガネ販売は前年同四半期比で増加し、また、準主力品目の補聴器、サングラスの売上も増加したため、全体的に前年同四半期比で大幅な増収となりました。

店舗につきましては、2店舗閉店し、2店舗で既存店の活性化を目的とした改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は3,024百万円（前年同四半期は2,384百万円）、セグメント損失は334百万円（前年同四半期はセグメント損失548百万円）となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた取引先への販売支援に努めておりますが、取引先の売上不振等によって卸売上額は全面的な回復には至っておりません。

この結果、売上高は91百万円（前年同四半期は75百万円）となり、セグメント損失は0百万円（前年同四半期はセグメント損失6百万円）となりました。

[写真館事業]

写真館事業につきましては、前年同四半期の3店舗体制から、現在は横浜本店の1店舗のみの営業を行っております。

この結果、写真館事業における売上高は7百万円（前年同四半期は13百万円）、セグメント損失は3百万円（前年同四半期はセグメント損失12百万円）となりました。

[海外眼鏡販売事業]

海外眼鏡販売事業につきましては、中国の北京市及び天津市において、直営店及びフランチャイズ店合わせて7店舗にて営業を行っておりますが、当地での新型コロナウイルス感染症は概ね収束状態にあり、既存店の活性化や経費の見直しに鋭意取り組んでおります。

この結果、売上高は30百万円（前年同四半期は16百万円）、セグメント損失は3百万円（前年同四半期はセグメント損失10百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末に比べ、現金及び預金の減少、有価証券の減少等により316百万円減少し、15,173百万円（前連結会計年度末比2.0%減）となりました。また、負債合計は支払手形及び買掛金の増加、賞与引当金の増加、未払法人税等の減少等により43百万円増加し1,928百万円（前連結会計年度末比2.3%増）となり、純資産合計は13,245百万円（前連結会計年度末比2.6%減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2021年5月11日の「2021年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,135	4,918
受取手形及び売掛金	694	631
有価証券	200	100
商品及び製品	1,924	1,970
原材料及び貯蔵品	13	13
その他	345	384
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	8,311	8,016
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,085	1,091
土地	1,878	1,878
その他(純額)	332	354
有形固定資産合計	3,296	3,325
無形固定資産		
ソフトウェア	77	76
無形固定資産合計	77	76
投資その他の資産		
投資有価証券	478	467
敷金及び保証金	2,940	2,914
その他	385	372
投資その他の資産合計	3,804	3,754
固定資産合計	7,178	7,156
資産合計	15,489	15,173

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	407	490
未払法人税等	119	51
賞与引当金	1	65
その他	833	807
流動負債合計	1,362	1,414
固定負債		
繰延税金負債	40	36
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	327	322
リース債務	6	5
その他	142	143
固定負債合計	522	513
負債合計	1,884	1,928
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	4,566	4,214
自己株式	△1,051	△1,051
株主資本合計	15,956	15,603
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	94	85
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	24	27
その他の包括利益累計額合計	△2,351	△2,358
純資産合計	13,604	13,245
負債純資産合計	15,489	15,173

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	2,489	3,154
売上原価	736	945
売上総利益	1,752	2,208
販売費及び一般管理費	2,340	2,553
営業損失(△)	△587	△344
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	4	4
受取家賃	19	10
その他	5	11
営業外収益合計	30	27
営業外費用		
固定資産除却損	0	2
貸貸費用	11	8
その他	0	1
営業外費用合計	12	11
経常損失(△)	△569	△328
税金等調整前四半期純損失(△)	△569	△328
法人税、住民税及び事業税	24	24
法人税等調整額	0	△0
法人税等合計	25	24
四半期純損失(△)	△595	△352
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△595	△352

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純損失(△)	△595	△352
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	△9
為替換算調整勘定	△1	2
その他の包括利益合計	8	△6
四半期包括利益	△587	△359
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△587	△359
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、他社が運営するカスタマー・ロイヤリティ・プログラムにかかるポイント負担金について、従来は販売費及び一般管理費として計上していましたが、ポイント負担金を差し引いた金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高、販売費及び一般管理費がそれぞれ7百万円減少しております。なお、営業損失、経常損失、税金等調整前四半期純損失への影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	2,384	75	13	16	2,489	—	2,489
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	11	—	—	11	△11	—
計	2,384	87	13	16	2,501	△11	2,489
セグメント損失(△)	△548	△6	△12	△10	△578	△9	△587

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△12百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
顧客との契約から生じる収益	3,024	91	7	30	3,154	—	3,154
外部顧客への売上高	3,024	91	7	30	3,154	—	3,154
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	17	—	—	17	△17	—
計	3,024	109	7	30	3,172	△17	3,154
セグメント損失(△)	△334	△0	△3	△3	△341	△2	△344

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△5百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。